



奉祝 天皇陛下御即位三十年

氷川神社
社報 第八号

武蔵一宮

奉 献

奉祝 天皇陛下御即位三十年(四)

新玉の年と時代に平和の祈りを込めて

平成三十一年己亥(つひのこ)の年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と御皇室の弥栄、国家の隆昌をお祈り申し上げますとともに、自然災害等で被災された皆様には一刻も早い復興をお祈り申し上げます。我が国の最古の歌集である『万葉集』には「言霊(ことたま)の幸(あゆ)ふ国(山上憶良)」「言霊(ことたま)の祐(たす)くる国(柿本人麻呂)」とあり、言霊とは言葉に宿る神霊、霊力のことです。神祭において神前となえられる祝詞は言霊信仰に基づいています。国歌「君が代」の詞は「君が代は 千代に 八千代に さざれ石の 巖となりて 苔のむすまで」ですが、天皇陛下を国家国民の統合の象徴とする日本が、小石が砂などと積み重なって大きな岩となり、その上に美しく苔が一面に生えるよう平和であります。これは明治の御代になり、諸外国にならって国歌を作る事になった際、古くから愛唱されていた君が代の和歌が用いられる事になりました。曲はイギリス人・W・フェントンが作曲したもので、明治十三年、より日本人の感性に合うようにと、宮内省楽部伶人の林廣守により作曲され用いられています。平和への祈りが込められた尊い国歌を永く歌い継ぎたいものです。



勅使齋館前のさざれ石

献灯会発足

昨年来、全国約八万社の神社を包括する神社本庁では、今上陛下の御即位三十年を奉祝し、幟旗(しほ)を作製するなどその機運を高める活動を行って参りました。政府主催の記念式典は本年二月二十四日に実施予定ですが、当社では一月一日より節分まで提灯を献灯し奉祝する献灯会を発足致し、点灯式を天長祭である去る十二月二十三日に行いました。冬の夜の帳が落ちようとする中、楼門前の約六百張の提灯に灯りが点き、居合わせた人々の仄暗い顔が一様に明るく照らされ満面の笑顔が溢れました。国民挙って奉祝の誠を捧げ、平成の御代三十年の御事蹟に想いを致す事が大切です。御皇室の弥栄を謹んで御祈念申し上げます。



明治天皇御親祭百五十年大祭記念碑建立竣功祭・除幕式

十月二十一日午前十一時、記念碑建立竣功祭を執り行いました。修祓しゆばつの後の除幕の儀では「明治天皇御親祭百五十年大祭記念碑」の順に曳綱行事を行い、「永・永・永」の掛け声で除幕致しました。主碑の曳綱行事の一条目は権宮司、総代会長大野隆司様はじめ責任役員十二名、二条目は内田聖様はじめ奉賛者の御代表十二名で執り行い、歌碑、芳名碑の曳綱行事は百六十二名の参列者の中から希望の方に御奉仕頂きました。祭典終了後、会場を呉竹荘に移動し、まず権宮司より「明治の御代が徐々に遠くなる中で記憶から記録になるように」と今般の記念碑建立の意義と御礼を申し上げた後、総代会長より「百五十年の節目とともに、新しい時代が始まるので更なる御協力を願いたい」と御挨拶と乾杯の御発声を賜り、直会を行いました。

また去る十月、楼門内廻廊の第一期工事が完了し、東側廻廊が石畳となりました。東側廻廊は正月期間中、臨時授与所の第二神札所となる外、敬神婦人会会員による湯茶接遇所、武蔵菊花会菊花展の展示場所等で使用されています。第二期工事は節分終了後から西側廻廊の工事を実施する予定で、御参拝の皆様には御不便御迷惑をお掛け致しますが御了承下さい。



奉納品紹介

明治天皇肖像画奉納

十月十五日午前十一時半、明治百年記念の際に作製された明治天皇肖像画を奉納頂き、小笠原流埼玉教場・株式会社小山弓具会長小山雅司様他三名参列のもと奉納奉告参拝を執り行いました。



鳥居奉納奉告祭



十月二十三日午後一時、境内の

稲荷神社にて鳥居の奉納を頂いたヤナセ矯正歯科川元麻実子様、清水園清水志摩子様、粕谷修治様参列のもと、奉告祭を執り行いました。また十二月三日午後一時、鳥居の奉納を頂いた株式会社丸三屋代表取締役新井佑治様参列のもと、奉告祭を執り行いました。

テントウエイト奉納

十一月十五日午前十一時、株式会社マスセイ様にテントウエイト二十kgを五十個奉納頂き、増田勝巳様以下七名参列のもと奉納奉告参拝を執り行いました。



武蔵野銀行狛犬奉納

此度、株式会社武蔵野銀行様より創業八十五年記念として、参道沿いの二の鳥居前に狛犬を奉納頂きました。竣功祭及び除幕式は十二月二十五日午前十一時、武蔵野銀行頭取加藤喜久雄様他役員関係者、来賓にさいたま市長清水勇人様、さいたま商工会議所会頭佐伯鋼兵様など十九名参列のもと執り行いました。この狛犬は稲田石を用い、左側は獅子型、右側は狛犬型で株式会社石の正、鈴木石材により製作されました。



社頭往来

氏子総代会研修旅行

十月二日より四日まで二泊三日の行程で氏子総代会研修旅行を実施、三十名が参加致しました。霧島神宮を正式参拝の他、枚間神社、鹿児島神宮、照國神社を参拝、知覧特攻平和会館、桜島、西郷どんNHK大河ドラマ館などを見学致しました。



氏子青年会研修旅行

十月六日、七日、全国氏子青年協議会関東地区研修会が山梨県で開催され、当氏子青年会か

ら十二名参加し、稲積神社を正式参拝致しました。



抜穂神事

十月九日午前十時、抜穂神事を執り行い、神饌として小さく丸めた団子を山盛りに、また刈り取った稲穂をお供え致しました。



埼玉WABI/SABI大祭典

十月十三日、十四日、埼玉県が主催となり埼玉WABI/SABI大祭典が開催されました。大宮公園を主要会場、氷川神社をサブ会場に行われ、また参道には氷川マルシェの店が立ち並びました。



無外流日心会奉納演武

十月十四日午後一時半、正式参拝の後、舞殿にて無外流日心会会長松沢功雲氏他十七名による奉納演武がございました。



献詠祭

十月十五日午前十時、献詠祭を執り行い「澄む」を兼題に八雲会会員の和歌が奏上されました。



神嘗奉祝祭

十月十七日午前十時、神嘗奉祝祭を執り行いました。祭典開始にあたり神嘗祭が行われる伊勢の神宮を遙拝致しました。

朔瓶祭

十月二十一日午前九時、朔瓶祭を執り行い、神饌として濁酒と調理した里芋、山東菜をお供え致しました。



第二十九回観月雅楽演奏会

十月二十一日午後五時半、水川雅楽会により観月雅楽演奏会が行われました。十三夜の満月のもと、舞殿にすすきを飾り、三百名の方に観覧頂きました。

曲目

神楽 人長の舞其の駒 豊栄の舞
管弦 平調音取 越殿楽 陪臚
舞楽 迦陵頻 落躑 五常楽



戦艦武蔵顕彰祭



十月二十四日午後二時、戦艦武蔵顕彰祭を、戦艦武蔵顕彰会副会長佐伯鋼兵様を始め二十名参列のもと執り行いました。

七五三

子供の成長を感謝しお祝いをする七五三詣に本年も約一万組の方々がお参りされました。皆様の健やかなる成長を御祈念致します。



無双直伝英信流居合兵法阿字会奉納演武



十月二十八日午前九時、舞殿にて無双直伝英信流居合兵法阿字会の第二代宗家井本忠昭阿司齋はじめ七名による奉納演武がございました。

武蔵菊花会菊花展

十一月一日より十一月十五日まで武蔵菊花会により第六十九回菊花展が開催され、楼門内外廻廊、舞殿に合わせて四百九十鉢の菊花が展示されました。



明治祭

十一月三日午前八時、明治天皇の御神徳を仰ぎ奉り、明治祭を執り行いました。

献詠祭

十一月十五日午前九時半、献

詠祭を執り行い「秋の夜」を兼題として八雲会会員の和歌が奏上されました。

埼玉県華道連盟献華式

十一月二十一日午後一時半、大宮華道連盟の献華式が執り行われました。廻廊展示は二十一日から二十三日まで行われました。



献華を頂いた先生(敬称略)

新桂古流いけ花

矢部清華、熊谷華遊、

埼玉皇峯道運盟献奉式(6ページ続き)

伊坂真苑、斉藤華朝、
吉森千成華、
山鳥野薫華

草月流

松野朱世、福居朱季、
冲山草俊、竹下尚峰、
池田朱葉

池坊明流

小澁恭園

桂古流

細田好草、高橋典花

池坊

脇門俊香

そうえい流

斉藤樹葉

小原流

新妻良華

龍生派

小泉秀光、池田和光

古流松藤会

藤井理正、岩波理豊

桂古流桂派

岩井蘭香

日本古流

加藤一紀

嵯峨御流

町田裕甫、渋谷友甫

遠洲流

守屋一陽、守屋一壽

日本華道協会

篠原仙芳

古流松東会

清水理秀

敬神婦人会国旗小旗作り

十一月二十六日、敬神婦人会の会員約八十名により国旗の小旗作りが行われました。作製された二千本の小旗は一般財団法人日本文化興隆財団に送られ皇

居での新年一般参賀等に活用されます。



新嘗祭並敬神講社大祭

十一月二十三日午前九時、約二百五十名参列のもと、新嘗祭並びに敬神講社大祭が斎行されました。



大湯祭



十一月三十日から十二月九日までを前斎、十日に本祭、十一日に後斎と勅使斎館にて解斎の儀である饗膳式を行いました。十日の本祭にあわせて西の市が

立つ為、十日市ともいいます。本年の人数は約二十万人でした。また本祭に合わせ舞殿に草月流の長内恵様より活け花の奉納がありました。

酒造組合祈願祭

十二月三日午前十一時、境内の松尾神社前にて酒造組合祈願祭が埼玉県酒造組合会長の株式会社小山本家酒造代表取締役社長小山本家酒造取締役理事社長小松崎功様、大瀧酒造株式会社大瀧榮壽様、北西酒造株式会社代表取締役社長北西隆一郎様参列のもと執り行われました。



十二月十五日午前十時、献詠



献詠祭 併すす払い



十二月四日午前十一時、社務所にて神宮大麻頒布式が執り行われ、総代会長大野隆司様に新たな伊勢の神宮のお札が授与されました。

神宮大麻頒布式



天長祭



十二月十六日午後二時、社務所大ホールにて武蔵菊花会の第六十九回菊花展の表彰式が行われました。水川神社宮司賞の他、経済産業大臣賞や埼玉県知事賞等、多くの賞が授与されました。

武蔵菊花会表彰式

祭を執り行い「釜じめ」を兼題に八雲会会員の和歌が奏上されました。また献詠祭終了後、本殿、拝殿、楼門のすす払いが行われました。

十二月三十一日より一月五日まで書元会による書道の廻廊展示が行われました。小学三年生から中学三年生までの会員の作品で今回は「あさひ」「やる気」「深い学び」、「茶畑の里」、「初

書元会廻廊展示



十二月二十三日呉竹荘にてNPO法人子どもの夢T.O.S.S 埼玉主催の第十七回五色百人一首大会が開催されました。参加者は幼稚園児から小・中学生で約百名でした。

五色百人一首大会

十二月二十三日午前十時、今上陛下の生誕日を寿ぎ、天長祭を執り行いました。



大祓式及除夜祭

十二月三十一日午後四時大祓式を執り行い、続いて拝殿にて除夜祭を斎行しました。



春の風、「緑の埼玉」、「新たな時代」が題となりました。

十月の奉納献華



古流松藤会	岩波理豊		
池坊	草谷智花		
草月流	沖山草俊	草月流	竹下尚峰
古流松藤会	川嶋理智	正風流一光会	桐生一光
桂古流	高橋典花	春草流	栗原春彩

敬神婦人会湯茶接遇



十一月一日、十五日
十一月一日、十五日

十一月の奉納献華



古流松藤会	岩波理豊
草月流	沖山草俊
草月流	竹下尚峰
池坊	草谷智花
桂古流	小林華侑
桂古流	高橋典花

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。参道清掃のお申し出、お問い合わせは社務所までお願い致します。

(五十音順、敬称略)

- 阿含宗埼玉道場
- 大宮明るい社会づくりの会
- さいたま市ジョブアシスト事業
- さいたま市立大宮北小学校
- 高鼻二丁目友の会
- ボーイスカウトさいたま一団
- みずほ証券株式会社
- 武蔵コーポレーション株式会社

十二月の奉納献華



古流松藤会	岩波理豊
草月流	沖山草俊
草月流	竹下尚峰
池坊	草谷智花
桂古流	高橋典花
春草流	栗原春彩

台風二十四号被害報告

十月一日未明に関東に上陸した台風二十四号により西側廻廊裏の大きな木が折れ、屋根を貫通、大きな被害となりました。



正式参拝及び諸会議

(敬称略)

- | | |
|--------|----------------|
| 十月 一日 | 敬神婦社理事會、評議員會 |
| 一日 | 敬神婦人会役員會 |
| 七日 | 武蔵菊花会展示会打合せ |
| 十日 | 英靈に伝える会(一部七県) |
| 十三日 | 埼玉WABIABI大祭典 |
| 十四日 | 武蔵菊花会菊作り研修会 |
| 十四日 | 無外流日心会 |
| 十五日 | 小笠原流埼玉教場 |
| 二十日 | 静友会(静岡銀行) |
| 二十五日 | 天津神明宮太々講中(千葉県) |
| 二十五日 | ビジネスジャパン観光特使 |
| 二十七日 | 埼玉建築士会 |
| 二十七日 | 不二歌道会 |
| 二十八日 | 無双直伝英信流居合兵法阿字会 |
| 二十八日 | 天行居 |
| 三十日 | 埼玉県神道青年会 |
| 三十日 | 愛知県神社庁岡崎支部 |
| 十一月 一日 | 交通対策会議 |
| 一日 | 参道対策会議 |
| 一日 | 宮崎空港ビル株式会社 |
| 六日 | 下諏訪町中新田区(長野県) |
| 十一日 | 武蔵菊花会表彰式打合せ |
| 二十一日 | 埼玉県華道連盟 |
| 二十六日 | 敬神婦人会役員會 |
| 二十六日 | 埼玉県神道青年会総会 |
| 十二月 三日 | 高円寺氷川神社(東京都) |
| 四日 | 日本会議大阪 |
| 五日 | 原子核衝突に関する国際会議 |
| 七日 | 神社研修会 |
| 七日 | 参道対策室部会 |
| 八日 | 氷川の杜まちづくり協議會 |
| 十五日 | 古神札焼納祭 |
| 十五日 | 北澤楽天顕彰会 |
| 十六日 | 武蔵菊花会 |
| 十七日 | 氷川ホテルの会清掃奉仕 |
| 十七日 | 責任役員会納会 |
| 十九日 | 氷川丸船長 金谷範夫 |
| 二十日 | 立正佼成会大宮教会 |
| 二十三日 | 五色百人一首大会 |
| 二十三日 | 献灯会 |
| 二十三日 | 大宮アルデージャ |

氷川神社摂末社の巡拝(その二)

境内にはさまざまな神様が祀られています。十三社ある境内社は摂末社とよばれますが、摂社とは旧官国幣社において境内外に祀られている神社の中で特に本社の祭神と由緒の深い神社を指します。その他の境内外に祀られている神社は末社といえます。当社のおみくじの文末には信仰すべき摂末社や御祭神の記載があります。御加護を頂けるよう御参拝下さい。



御祭神

倉稲魂命
うかのみたまのみこと

おみくじの表記

稲荷神社

稲荷大神

稲荷の神



稲荷神社
いなりじんじや

須佐之男命の御子神である食物の神

御祭神、倉稲魂命はもともと食物の神で転じて農業や商業の神として信仰され、古事記では須佐之男命の御子神として登場します。御神使は狐、御本社は京都府の伏見稲荷大社で、和銅四年(七二一年)の二月初午の日に、稲荷山に稲荷大神様が御鎮座された事に由来し、立春後の初午の日に初午祭を行います。崇敬者から奉納された連なる朱の鳥居も稲荷神社の特徴で、当社では初午祭にあたり鳥居の御奉納を頂いた皆様に御案内し御参列を頂いております。



大山咋命
おおやまくわのみこと

おみくじの表記

松尾神社

松尾社



松尾神社
まつおじんじや

酒造と水の神

御祭神の大山咋命は山の神であることから、酒造と水の神として信仰されております。創立の沿革は詳らかではありませんが、氷川神社の御祭神である須佐之男命の孫にあたり、神祭りに欠かせない黒酒白酒醸造の守護神として、境内に祀られることになったのでしょうか。御本社は京都の松尾大社で、御神使は亀とされます。現在の社殿は、昭和三十九年氷川神社の本殿遷座と共に、銅板葺流造りの社殿に新築したものです。その折、社前に上尾市北西酒造株式会社により燈籠二基が献納されました。



御朱印

時代によって異なる御朱印



現在の御朱印



大正時代の御朱印



江戸時代の御朱印

写真協力：佐々木俊治氏

御朱印帳各種



参道 [数量限定] (朱印料込1700円)



八雲 (朱印料込1500円)



楼門 (朱印料込1500円)

神社参拝した証として戴く「御朱印」。その起源は、奈良・平安の昔。神社仏閣に書写した經典を奉納した際に戴いた「納経受取(のうきょうけとり)の書付」ではないかといわれています。「神社へ經典を奉納したの?」と思われる方もありませんが、こうした例の代表に「平家納経」があります。これは時の天下人・平清盛が神仏習合思想の影響をうけ、「嚴島神社の御祭神は、十一面觀音がお姿をお変えになったもの」と解釈して奉納したものです。こうした納経は徐々に一般にも広がり、社寺から「納経受取の書付」を戴いていたことが、やがて納経をせず参拝のみをした場合にも証明を書いてもらうというように変化していったものと考えられています。鉄道網が整備された明治以降には、巡拝旅行と集印が盛んに行われるようになりまし。それに伴って、案内本や旅行記といった書物も出版されるようになり、昭和十年頃から「御朱印」という呼称が見られるようになります。遠路をこえて叶った神社参拝。敬神の思いの結晶ともいえる御朱印帳は、昔も今も、まるで参拝した時の感動を永久保存してくれるかのような掛替えのない存在といえましょう。「神社本庁ホームページより」

埼玉県神社庁主催の教化事業「神主さんと神社を学ぼう」で実施された県内神社の御朱印と御朱印帳を集めた御朱印展(会場：当社西待合所)。本年は三月一日より四月七日まで実施予定です。



平成31年の厄除(数え歳)

数え年		前厄	本厄	後厄
男の厄	25才	平成 8 年	7 年	6 年
男の大厄	42才	昭和 54年	53年	52年
男女厄	61才	昭和 35年	34年	33年

数え年		前厄	本厄	後厄
女の厄	19才	平成 14年	13年	12年
女の大厄	33才	昭和 63年	62年	61年
女の小厄	37才	昭和 59年	58年	57年

平成31年の方位除(数え歳)

中央(八方除)			北		北 東		南 西				
大正	9 年	100才	大正	13年	96才	大正	15年	94才	大正	12年	97才
昭和	4 年	91才	昭和	8 年	87才	昭和	10年	85才	昭和	7 年	88才
	13年	82才		17年	78才		19年	76才		16年	79才
	22年	73才		26年	69才		28年	67才		25年	70才
	31年	64才		35年	60才		37年	58才		34年	61才
	40年	55才		44年	51才		46年	49才		43年	52才
	49年	46才		53年	42才		55年	40才		52年	43才
	58年	37才		62年	33才		元年	31才		61年	34才
平成	4 年	28才	平成	8 年	24才	平成	10年	22才	平成	7 年	25才
	13年	19才		17年	15才		19年	13才		16年	16才
	22年	10才		26年	6 才		28年	4 才		25年	7 才

婚礼展示会のお知らせ



一、日時
1月27日(日)13時~16時

一、会場 当社呉竹荘

一、予約、会費 不要



御力守 初穂料 1500円



交通安全小守
初穂料 500円

埼玉県神社庁主催

『神主さんと神社を学ぼう』

日時 平成31年3月30日(土)会場 当社境内
『氷川マルシェ』、『さんきゅう参道2019』
3月30日、31日同時開催予定。雨天決行。
※詳細は埼玉県神社庁ホームページを御参照下さい。
<http://www.saitama-jinjacho.or.jp/>

心願成就の「御力守(ちからまもり)」を奉製致しました。桐箱にお入れしました御力守は、かつて神域にごさいました「おがたまの木」が内符として納められております。おがたまの木は神道思想の「招霊(おぎたま)」から転化し、古くから神様の力の宿る神木とされています。限定数量の奉製で、授与は一月十五日からです。

御力守

交通安全小守

此の度、新たに交通安全小守を奉製致しました。授与は一月一日からです。

第9号は4月15日発行予定です

発行 平成31年1月15日

発行所 氷川神社社務所

写真協力 中村写真館 埼玉県神社庁

印刷所 株式会社 秀飯舎

さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <http://www.musashiichinomiya-hikawa.or.jp/>